

#### 4-1-6 職業観（問 27）

本調査では、職業観を「個人」「経済」「社会」の3つの側面から測定した。

まず、問27の(1)(4)の2項目を合成変数化し、平均値を「職業観（個人的）」得点とした。「職業観（個人的）」得点の平均値は3.65（標準偏差=0.80、最小値=1、最大値=5、中央値=4.00）であった。

次に、問27の(2)(5)の2項目を合成変数化し、平均値を「職業観（経済的）」得点とした。「職業観（経済的）」得点の平均値は4.29（標準偏差=0.63、最小値=1、最大値=5、中央値=4.00）であった。

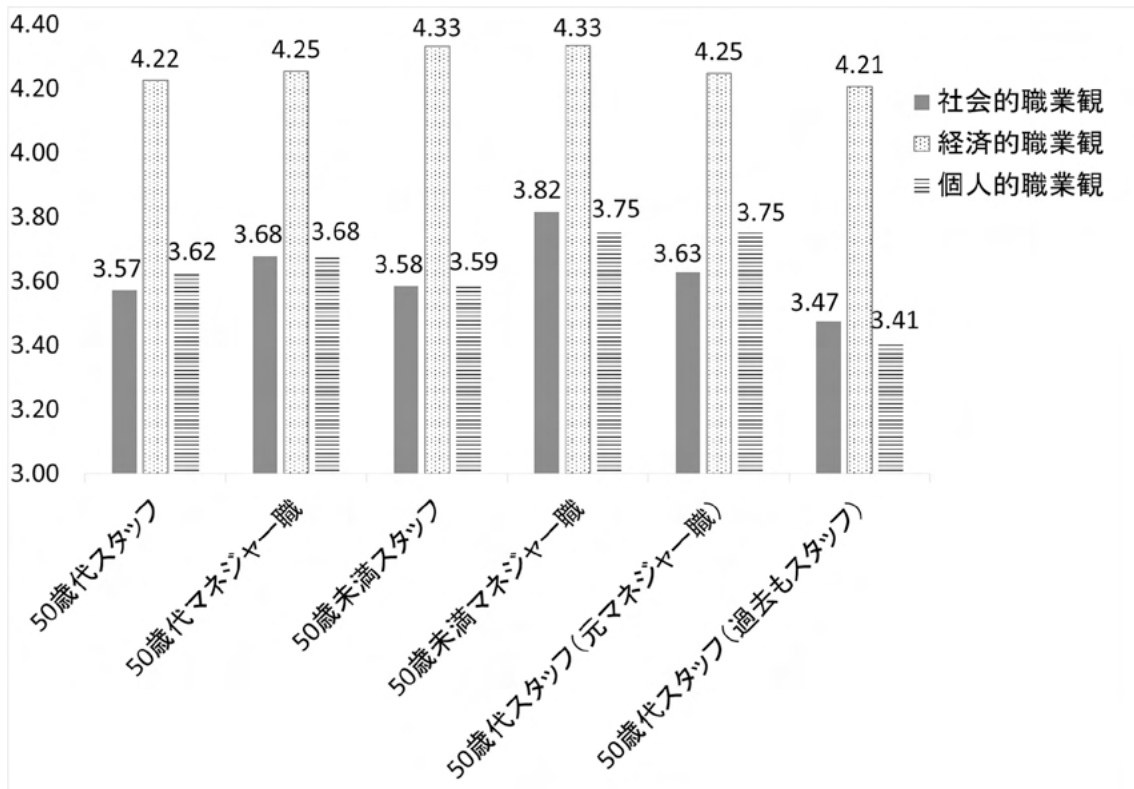
そして、問27の(3)(6)の2項目を合成変数化し、平均値を「職業観（社会的）」得点とした。「職業観（社会的）」得点の平均値は3.65（標準偏差=0.81、最小値=1、最大値=5、中央値=4.00）であった。

問27 働くことに対するお考えをお聞きします。それぞれについて、もっともよくあてはまるものに○をつけてください。（まったくそう思わない [1点] ～とてもそう思う [5点]）

表 4-8 職業観を測定する質問内容と平均値

質問内容		平均値
(1)	私にとって働くことは、私のもっている力を発揮する場として重要である	職業観（個人的） 3.64
(4)	私にとって働くことは、自分の知識や技能を活用できる場として重要である	
(2)	私にとって働くことは、私の望む生活をするために必要なお金を得るために重要である	職業観（経済的） 4.24
(5)	私にとって働くことは、生計を立てるために重要である	
(3)	私にとって働くことは、社会の一員として自分の役割を果たすために重要である	職業観（社会的） 3.68
(6)	私にとって働くことは、社会に貢献する手段として重要である	

図 4-11 3つの比較軸と「職業観」(個人的、経済的、社会的)の得点



3つの比較軸と職業観(個人的、経済的、社会的)の得点を見ると(図4-11)、50歳代マネジャー職と50歳代スタッフの間には、職業観(個人的、経済的、社会的)の得点に大きな差は見られない(比較軸①)。

また、50歳代スタッフのうち、元マネジャー職と過去もスタッフの間、職業観(個人的、経済的、社会的)の得点の差を見ると、社会的職業観と、個人的職業観において差が見られる。具体的には、社会的職業観、個人的職業観のいずれにおいても50歳代スタッフ(元マネジャー職)の方が50歳代スタッフ(過去もスタッフ)よりも高く、それぞれ0.16ポイント、0.34ポイントの差がある(比較軸②)。

そして、50歳未満マネジャー職と50歳未満スタッフの間においても、社会的職業観と、個人的職業観において差が見られる。具体的には、社会的職業観、個人的職業観のいずれにおいても50歳未満マネジャー職の方が50歳未満スタッフよりも高く、それぞれ0.24ポイント、0.16ポイントの差がある(比較軸③)。

経済的職業観は、比較軸①、比較軸②、比較軸③のいずれにおいても、ほぼ同程度の水準であった。